

## 第6回青森県生涯学習審議会 会議概要

日時	令和2年9月25日（金） 15:00～17:00
場所	青森県庁南棟5階 教育委員会室
出席者	<p>《 委員 》 敬称略14名          清水目 明美    中村 まり子    長岡 俊成    米田 大吉          吉川 康久    永澤 正己    石橋 伸之    工藤 貴子          柏谷 至    松本 大    廣森 直子    山崎 結子          伏見 憲子    岩本 美和</p> <p>《 事務局 》 4名          葛西 浩一（生涯学習課長） 花田 千穂（学校地域連携推進監・課長代理）          大島 義弘（生涯学習課 企画振興グループ 主任社会教育主事）他1名</p> <p>《 その他 》 2名          山本 洋史（総合社会教育センター 教育活動支援課長）          三浦 博明（生涯学習課 地域連携推進グループ 主任社会教育主事）</p>
内容	<p>1 開 会          2 教育長挨拶          3 案 件          （1）最終答申案について          （2）その他          4 閉 会</p>
配 付 資 料	<p>次第・青森県生涯学習審議会委員名簿・座席図          &lt;資料&gt;          1 最終答申案          2 青森県生涯学習審議会・青森県社会教育委員の会議スケジュール</p>

## 1 開 会

(内容省略)

## 2 教育長挨拶

(内容省略)

## 3 案件

**会長** 本日で約 2 年にわたるこの審議会の議論も最後となる。これまで多様な立場からさまざまな意見をいただいて、ようやく最終答申案をとりまとめることができた。本日はこの最終答申案について審議するとともに、これからの生涯学習及び社会教育の在り方についても忌憚ない御意見をいただければと思う。それでは、案件（1）の最終答申案について、事務局から説明していただきたい。

事務局より、資料について説明。（資料 1）

**会長** 最終答申案についての御意見をいただく前に、第 1 章から第 3 章については事前に各委員から御意見を伺っているので、今回初見になる「はじめに」と「おわりに」の箇所について、それぞれの執筆者から説明させていただきたい。

**会長** 「はじめに」は、例年であれば審議の経過や主な論点等についてまとめているが、前回の会議において、新型コロナウイルス（以下「コロナ」）の影響についての記載が必要との御意見があったので、「はじめに」の中で記述している。コロナに関する内容については、現在直面している新しい状況もあるが、そのような中でも生涯学習・社会教育の意義は失われるものではないということを主に述べさせていただいた。この内容については私見なので、ぜひ御意見を伺いたいと考えている。

**副会長** 「おわりに」は、第 2 章を担当した社会教育委員の会議の議長として、主な審議の内容をまとめている。内容としては、これからの社会教育施設に求められる役割について言及した上で、職員の専門性と拠点としての機能の重要性について述べさせていただいた。

**会長** それでは、最終答申案について自由に御意見をいただきたい。

**委員** 楽しみにしていた地域のお祭りが中止になるなど、コロナは高校生の心情の面にも大きな影響を与えていると思う。高校生の地域に対する気持ちの変化について、今後の議論が必要なことを記載してもらいたい。個人的な思いとしては、地域の魅力に目を向ける高校生が増えて、地元への定着や一度地元を離れても再び戻ってくる人が増えてほしいと考えているので、今後の検証について期待している。

**会長** 私も今の御意見と同じような捉え方である。「はじめに」の中で、今後の審議テーマとなる可能性について触れてもいいと考える。

副会長 「おわりに」の中でも、コロナの影響について記述したいと考えているがいかかか。

(複数の委員からの賛成)

会長 どの程度書き加えるかについては、事務局と今後の日程を相談した上で決めることとする。

委員 語句の修正になるが、13 ページ③「地域での活動に参加しやすい環境を整える」の下から 2 行目の「より多く人が」を「より多くの方が」に修正してはどうか。また、コロナの影響については、オンライン化やデジタル化の普及により、これまでは生涯学習・社会教育の場になかなかアクセスできなかった人たちにとって研修や学習の機会が増えることになり、プラスの側面につながっていると考えている。そういったコロナ収束後のポジティブな社会状況について、次期審議会においてテーマとして取り上げてもいいと考えている。

会長 語句の修正については、御指摘のとおり修正することとする。また、コロナの影響によるポジティブな側面についても、「はじめに」に追加して記載することとする。

委員 実地調査で八戸市立図書館を訪れた際、若者の利用を促進するためにはWi-Fi環境の整備が重要になってくるというお話を伺った。社会教育施設におけるWi-Fi環境の整備はまだ遅れている印象を受けるので、今後さらなる取組が必要だと考えている。

委員 現在の状況としては、Wi-Fi環境が整っていない社会教育施設は多いと感じている。今後は、Wi-Fi環境の整備が必要になってくると思うが、社会教育部局の予算だけで整備を進めることは難しいと思うので、防災等の首長部局との取組と関連付けて整備を進めることが有効な手立てとして考えられるのではないか。また、今後は家庭におけるWi-Fi環境の整備も進むと考えられるが、世界とつながる状況が促進される中で、いかに地域を支える人材を育成するのが課題になってくると思う。

会長 次期審議会のテーマに関連する内容だと思いながらお話を伺っていた。本日の会議の後半では、これまでの活動を振り返っての感想とともに、次期審議会でも話し合ってもらいたいことについても御意見をいただきたいと考えている。一旦、最終答申案についての審議はここまでとする。

(休憩)

会長 それでは、案件(2)その他に入る。まずは事務局から今後のスケジュールについて説明していただきたい。

事務局より、資料について説明。(資料2)

会長 事務局から説明があったように、10月2日に私から教育長に答申書を提出することとなる。それをもって本審議会の役割は一区切りとなる。また、本日は最後の会議となるので、これまでの2年間の活動を振り返っての感想と今後の生涯学習・社会教育

行政に対しての課題や展望について、お話しいただければと思う。

**委員** 私は以前、社会教育に携わったことがあるので、その時の経験も含めて意見を述べさせていただいた。改めて思うことは、学校教育は学校だけでは難しいということである。地域における様々な人たちの力を借りなければ、子どもたちの多様なニーズに応える教育活動の提供は難しいので、今回の答申で学校教育に関連することを提言していただいたことについて、ありがたく感じている。また、社会教育行政を支える人材の育成については、市町村教育委員会の取組だけでは難しいので、県教育委員会が率先して人材育成に取り組むことで、市町村にもいい影響が波及することを期待している。

**委員** 先ほどコロナ禍におけるオンライン化の進展について意見を述べたが、次期審議会において、そういったことの可能性について議論を深めていただければと思う。また、地域の祭りについての意見も出ていたが、現在の状況では、祭り文化や祭りを中心とした地域コミュニティが瓦解してしまう危惧を抱いている。今後も継続して地域の祭りを残すには、祭りの関係者の方々の取組だけでは難しいので、このことについても次期審議会でも議論していただけることを期待している。今回、様々な立場の委員からの意見を集約して答申をとりまとめることができたので、配付して終わりではなく、それぞれの立場でわかりやすく伝える工夫が必要になってくると思う。

**委員** 若者の生涯学習を考えると、体験型の学習が存在する一方で、最近は特にネット上での学習が多くなっていると感じている。生涯学習に限った話ではないが、青森県という枠組みでの活動に加えて、そういった全国や世界とつながる活動がさらに増えていくと想像している。そのため、本審議会は青森県の会議ではあるが、県という枠組みを飛び越えた活動にも目を向けることで、若者の活動についてもより把握できるようになると考える。コロナの影響によって、逆に地域の良さが見直された部分があるので、広い視点から自分たちの地域の良さを見つけていけるような会議になることを期待している。

**委員** 様々な分野で活躍されている方の御意見を伺う機会となり、大変勉強になった2年間だった。今後、生産年齢人口の減少がさらに進むことは間違いないことだと思うので、これまでの価値観が大きく変わっている現在のコロナ禍の中で、今回の答申が青森県の課題を解決する起爆剤になることを期待している。

**委員** コロナによる影響として、社会教育の面でもオンライン化を取り入れる必要があると感じている。先ほどお話があったように、社会教育施設のハード面の整備や人材育成には、どうしてもそれなりの予算が必要となるので、防災等の取組と連携して整備を進めることは重要な視点だと思う。また、地域における活動を通じて、地域を支えているのは元気なお年寄りだという印象を強く感じている。勤務している大学では、介護予防に関する話がよく出てくるが、それだけではなく、高齢者の生き生きとした活動をどのように支えていくかということも今後の課題だと考えている。

**委員** これまで、料理教室や本の出版、食育の指導などに携わってきたが、地域の方々や子どもたちと楽しみながら活動すること自体が生涯学習と関わっていることに、この会議を通じて気づくことができた。また、それらの経験の中で感じていたことを伝えることができたので、大変感謝している。私の家庭では、ホームステイで外国の子

どもに宿泊してもらうことがあるが、必ずと言っていいほどWi-Fi環境の確認をしてくるので、国際的にもWi-Fi環境の整備は重要になっていると実感している。

**委員** 青森県の最近の傾向として、地域における人間関係の希薄化や地域の教育力の低下を大変心配している。そのような中で、今回の実地調査では、社会教育施設におけるそれぞれの取組や職員の方の熱意などのすばらしい点を再確認することができた。子どもの数が減少する中で、施設をどう活用するかが課題となっているが、施設の利用が促進されることを期待している。

**委員** 学ぶことの楽しさに気づくきっかけを子どもたちに与えることができるのは、大人の役割だと思っている。そして、大人にとっても学びや活動が楽しいと思えることは重要なことである。今回の答申では、子どもの自己肯定感を高めることの重要性についても述べられているが、そのことは大人になってから、仕事や様々な活動での課題を解決する力につながっていると思う。子どもたち一人一人が持っている良さを認めることで、自己肯定感を高めることができると思うので、社会教育の中での取組に大変期待している。また、私が暮らしている町では、若者がWi-Fi環境を求めてコンビニに集まっている様子がしばしば見られるので、Wi-Fi環境の整備にも取り組んでいく必要があると考えている。

**委員** 2年間の審議会の委員としての活動を振り返って、自分自身が一番成長させていただいたと率直に思っている。三番目の子どもが現在高校生だが、子どもとの接し方においては、以前よりも自主性や主体性を尊重することができていると感じている。また、実地調査で各施設を訪れた際、職員の方々から直接お話を伺う中で、真心や熱意を強く感じた。現在、コロナの影響でオンライン化が進んでいるが、対面から伝わる温かさも重要なことだと考えている。

**委員** 学校教育では生きる力の育成を大きく掲げているが、社会に出てから生き抜いていく力につながっていることが重要である。中教審の答申では、「社会に開かれた教育課程」について示されているが、学校が地域社会と連携して教育活動を進めていくことが重要である。また、教育活動の中においては様々な体験活動が取り入れられているが、その効果についての検証が必要だと考えている。例えば、修学旅行では楽しさが優先され、どのような学びにつながっているのかを疑問に思う活動も中にはある。ただ単に体験すればよいということではなく、その体験がどのような学びにつながっているかを考える必要があると思う。

**委員** コロナの感染拡大により、我々の生活にも様々な影響が出てきているが、前例踏襲の考え方を変えてくれたことは、コロナによるプラスの側面だと捉えている。社会教育はもちろん学校教育においても、これまでにはなかった新しい活動に取り組み始めるタイミングになると思う。また、これまで会議の中では、各世代の横のつながりについて話をすることが多かったと思うが、一方で幅広い世代にわたる縦のつながりも重要だと考えている。例えば、今別町の「荒馬」という郷土芸能では、県外から100名ほどの学生が毎年訪れて、祭りを存続させるために活動を行っている。この活動は学生たちが自主的に行っているものであり、地域の伝統芸能を切り口にして、多様な世代が結びついた活動の力強さを感じている。さらに、人口減少と関連する話をすると、この先10年で大学生の数は大きく減少することになる。現在、青森県内には11の大学が存在するが、そのすべてを存続させるのであれば、大学生以外の人も大学を

利用できるようにする必要がある。今回の答申では、社会教育施設や県立少年自然の家の今後の在り方についても提言されているが、そういった施設の活動の一部を担うような仕組みについても考えてよいと思う。

**委員** これまで高校現場での勤務が中心だったので、生涯学習・社会教育の分野に関わることができて大変勉強になった。また、十和田子ども食堂や十和田高校会議所などの活動を通じて、生涯学習の面白さを実感することができた。以前から高校生が地域と関わることの重要性については感じていたが、最後に勤務した学校では、全校生徒と全職員で地域の祭りに関わっていた。2日間にわたる日程で、終わった時には全員へロへロになっているが、その達成感は何物にも代えがたい。そういった体験は子どもたちの中に残り続けていくと思う。中心となって活動していた方の顔を何人か思い浮かべることができるが、地域にはそういった活動を支える人材が必要だと思う。

**副会長** 今回の審議テーマが「地域コミュニティ再生のための生涯学習の推進の在り方」とあるが、生涯学習や社会教育に地域コミュニティを再生する力があることは一般的にはあまり知られてないことだと思う。学びというものは、子どもや学校に限った話ではなく、大人に関しても大変重要なことで、人や社会をつくることに大きく関わっていることを丁寧に議論してきたのが今回の審議会だったと考えている。今回の答申では、キーワードの1つとして「楽しさ」が挙げられると思う。「楽しさ」は決して特別なことではないが、その「楽しさ」をいかに仕組みとして整備できるかがポイントになると思う。また、コロナの関係では、もともと人と人がつながることへの欲求はあったと思うが、今後はますます社会教育施設にその実現が求められることになると考えている。人が集まることに制限がある現在、施設に来てもらうだけでなく、施設の外でのつながりが重要になってきているので、職員の専門性やネットワークを生かした取組に期待している。最後に、以前から課題だと思っていた社会的困難を抱える人たちへの取組に関する内容が、今回の答申に盛り込まれているので、個人的には大変ありがたく思っている。

**会長** それでは最後に私からも意見を述べさせていただきたい。私の専門は環境社会学で、生涯学習とは違った分野の研究に携わっているが、この審議会における自身の役割としては、委員の皆さんからの御意見をしっかり伺った上で、わかりやすく整理することだと認識してやってきた。今回の審議会では、それぞれの立場から多様な御意見をいただいていたので、1つの結論として答申をとりまとめることができ安心してともに、今後の生涯学習・社会教育の取組に生かされることを期待している。また、次期審議会に向けて多くの御意見をいただいたが、コロナ収束後の生涯学習・社会教育に、デジタル化という大きな流れをどのように取り入れていくかがポイントになると感じている。祭りやイベントについても御意見をいただいたが、自身の学びとつなげることが、特別な体験にできるかに大きく関わってくる。それは、地域の魅力とも関連する青森らしい大きなテーマだと考えている。最後に、私自身の研究テーマに関係する話をすると、最近ではSDGsという考え方があり、個人的には経済発展と環境問題と社会的包摂について、3つ同時に取り組むことで世界の格差と不平等の解決を図ることだと捉えている。そういった視点がこれからの生涯学習・社会教育にも重要になってくると感じている。

#### 4 閉会

(内容省略)